



共通教養科目「プロジェクト学習(航空業界を知る)」



DATA

- 主な連携先・メンバー
スカイマーク株式会社／受講生(2018年度：39名、2019年度：35名)
- 活動地域
兵庫県神戸市(神戸空港)／関西大学千里山キャンパス
- 活動期間
2018年度～2019年度
- 活動資金
なし

活動の目的

- 1 航空業界が抱えている課題にある、多面的な背景について理解すること
- 2 問題解決にあたり、異なる考え方を持つグループメンバーと積極的なディスカッションを通じ、最適解を見出すこと

連携にいたる経緯

本学の共通教養科目では、専門教育の基礎を修めた3年次以上の学部学生が学際的なテーマに取り組むPBL型科目を開設している。企業や自治体との連携で実際に社会が抱える現実の課題に取り組む本科目の連携先として「スカイマーク株式会社」の協力を得たものである。

活動内容

スカイマーク株式会社との共同授業として全4回の短期集中で開講。航空会社が実際に抱えている課題について、異なる専門性を持つ学生らの協働的な視点で問題解決を試みる、プロジェクト型学習を行った。

第1回は、スカイマーク株式会社の社長・社員の方々による講義が行われ、事業改革への取り組みや職務内容等、貴重な話に学生たちは耳を傾けた。第2回には神戸空港でのフィールドワークが実施され、神戸空港支店に関する講義や空港内見学が行われた。以上を踏まえ、第3回には「地域共生」「新規路線」「機内誌」「CS」等からテーマを選択したうえで、グループワークに取り組み、その成果を、第4回到社長・社員の方々を前にポスター・スライド発表を行った。学生ならではの視点を取り入れた様々なアイデアに、スカイマーク社からは、新たな気付きもあり有意義であったとの講評をいただき、2019年度では実際に2つの事業アイデアについて、一部の受講生による神戸空港での実証実験が行われた。学生からは、自主的に学ぶことの喜びとスカイマーク社への感謝の声があげられた。



活動の成果

- 1 履修生の多くは受講前から航空業界に興味を持っていたが、受講後、航空業界に関する知識やイメージが広がったとの声を聞くことができ、キャリア教育の一環となった
- 2 学生の課題解決提案のうち「耳抜きの方法などを記載したポケットティッシュ」等2件がスカイマーク社で評価され、実際の製品作成、神戸空港での実証実験が行われた
- 3 学生の要望に応じていただく形で、「スカイマーク株式会社」でのインターンシップが実現した
- 4 社会との連携は重要であるが、その機会を持っていない学生が多い中、教養教育における本授業ではそのきっかけを作ることができた

今後の課題・目標

同一の企業等との連携年数が限られていること、連携先の負担も少なくないことから、大学・企業双方のニーズがマッチする連携を模索すること

教員紹介



■ 教育推進部 教授

森 朋子

Tomoko Mori

※2020年3月末付退職

東京都出身。専門は人の学びのプロセスや構造を明らかにする学習研究。授業内容の専門家とともに、最新の教育方法を用いて学生の学びをコーディネートしている。



■ 人間健康学部 教授

岡田 忠克

Tadakatsu Okada

1970年大阪府堺市生まれ。大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程単位取得後退学。現在、関西大学人間健康学部教授。博士(学術)。専門は社会福祉政策で、主著は『社会福祉の理論と政策』(中央法規出版)、『よくわかる社会福祉』(ミネルヴァ書房)、『転換期における福祉国家』(関西大学出版部)、ほか多数。